



青森エタムリーNEWS

NO. 31

令和5年1月6日発行

青森県立青森工業高等学校 学習メディア部

今号では、令和4年度2学期の生徒を中心とする学校の活動状況の一端をお知らせします。新型コロナ感染第7波・第8波と続く中ではありますが、本校では通常の学校生活を一段と取り戻しつつあります。2学年のインターンシップ（就業体験）は3年連続で中止となりましたが、修学旅行は予定通り関西方面に4泊5日で実施されました。「青工ねぶた」運行も2年続けて断念せざるを得ませんでしたが、今年は万難を排して3年ぶりの出陣にこぎつけることができました。さらに全国産業教育フェア青森大会もマエダアリーナを主会場に行われ、その他に施設・工場見学や体験実習などもあり、2学期は充実した日々を送ることができたのではないかと考えています。

高校教育改革により、来年度から電子機械科という学科名がなくなり、全学年が6学科（6クラス）となります。様々な実績を残してきた電子機械科の伝統は今後も様々な形で継承していきたいと思います。その最後の在校生から青工会館建設協賛会へ会館建設のために寄付金が贈呈されました。この寄付金は10月の青工祭の模擬店の売り上げで、少しでも後輩のために何かできないかという思いで寄付をしたそうで、早期の青工会館の着工が待たれます。

【青工祭2022 新時代～新たな一歩～】

10月21日（金）～23日（日）に青工祭が予定通りに開催されました。コロナ禍のため、土日の一般公開は在校生の保護者のみの参加という形で行われましたが、多数来場していただき、有難うございました。1学年は校内装飾、2学年はクラス展示、3学年は模擬店を担当し、各クラスとも創意工夫が凝らされ、特に中庭で開催された模擬店は盛況で、その他の各種イベントも盛り上がりしました。生徒にとって良い思い出になったのではないのでしょうか。1週間くらい前から準備期間に入り、放課後遅くまで企画や制作に取り組みました。NHK青森支局の「ナノコエ」の取材も入り、最後は打ち上げ花火で祭りを締めくくりました。



【ねぶた運行再開！！】

ねぶた運行初日の8月2日（火）、コロナ禍で中止を余儀なくされていた「青工ねぶた」が3年ぶりに出陣しました。今年のねぶたは「北のまほろば 三内丸山」をテーマに製作され、3年生中心に多くの教職員も参加し、担ぎ手、囃子方、跳人とコロナ第7波を吹き飛ばす堂々たる勇姿を披露しました。



【さんフェア青森2022】

第32回全国産業教育フェア青森大会が「響かせよう産業の音色～縄文の風吹く青森で～」をテーマに10月15日（土）・16日（日）にマエダアリーナを主会場に県内各会場にて開催されました。この大会は専門高校生が全国から集い、日頃の学習成果を総合的に発表する場で、生徒による実践発表、作品展示、コンテスト、体験コーナーなど様々な催しが行われます。主会場に一番近い本校の生徒が主役となって運営を担い、多数の来場者が詰めかけ、盛況のうちに幕を閉じることができました。



【スポーツ大会】

12月22日、23日の両日、1日半の日程でスポーツ大会（競技は学年別）が開催され、生徒たちは活き活きとしたプレーで寒さを吹き飛ばしていました。競技は22日が室内サッカー、バスケットボール、オセロ。23日がバレーボール、バドミントン、卓球、神経衰弱です。例年よりも競技数は少なくなりましたが、学年ごとの結果は以下の通りです。各学年ともスポーツ面では電気科が一番元気があるようです！

総合優勝	1 学年	1 位 電気科	2 位 建築科	3 位 電子科
	2 学年	1 位 電子科	2 位 情報技術科・建築科	
	3 学年	1 位 機械科	2 位 電気科	3 位 都市環境科



～終わりに～

紙面の都合で掲載できませんでしたが、2学期にはロボット競技大会、マイコンカーラリー、青森第二高等養護学校とのものづくり交流会、施設・工場見学、さらに外部講師による技術指導・体験実習など座学以外の教育活動も盛んに行われています。進路面に関しても教職員と3学年の生徒たちが一体となって取り組み、就職戦線は好調で、そのほとんどが希望を達成しています。来年度はいよいよ学校創立110周年記念事業が多岐にわたり実施されますので、それに向けて一段とギアをあげて全校的な取り組みを進めていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。